

令和元年度授業改善推進プラン【6年生】

教科	児童の課題	具体的な改善のための方策
国語	△書くことをためらう児童が多く、自分の考えや思いを十分に表現することができない。	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の中で少しずつ自分の意見や考えなどを書く活動を取り入れ、交流することによって書き方が分かり、書くことの苦手意識を少なくしていく。
社会	<p>△問題解決に向けて適切な資料を選択し、活用できる児童が少ない。</p> <p>△基本的な社会的事象についての知識が乏しい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・複数の資料を提示し、その中から適切な資料を選択して情報を取り出したり、比較・関連付けたりする場面を授業の中に意図的に設ける。 ・児童に、複数の資料の中から「なぜその資料を選んだか」「どのような情報が取り出せたか」「何と何がどのように似ているか、どのように違うか」を発表させるとともに、そのように資料から読み取ったポイントを説明させた上で、ICT 機器で拡大提示して確認するなど、資料をもとに考えさせる工夫をする。 ・児童が社会的事象についての知識を明確にし、想起できるよう5分間のミニワークの時間設定をする。
算数	<p>△自分の考えを表現することが苦手な児童が多い。</p> <p>△繰り上がり、繰り下がりや、掛け算九九など、基本的な計算が身に付いていない児童がいる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・説明がしやすくなるように、図や表を用いて整理してノートにまとめるように指導をする。 ・学び合いを増やすなど、友達と話し合う中で自分の考えを表現できる機会を増やす。 ・授業で取り扱う問題を精選し、基礎学力の向上を図る。 ・学校では朝学習で基本的な計算の問題に取り組み、家庭学習では補充プリントなどの取組を行うように保護者に協力をお願いをしていく。
理科	△理科の学習で用いる言葉の意味を知らないため、問われている事柄が分からず、プリントやテストに取り掛かれない児童が多い。	<ul style="list-style-type: none"> ・授業で実物や動画や写真などを活用して、理解がしやすいように工夫する。 ・理科的な用語の意味を確実に習得させ、正確に問題把握ができるようにするために、授業の中で実物を見せたり、動画や写真などを活用したりして、用語の意味をより理解しやすくなるように工夫する。
音楽	△楽器などの技能面では、苦手意識をもつ児童が多い。	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が主体的に学習を進めることができるよう、段階を追った学習計画をたてて提示するようにする。練習方法としては、個人の練習から、二人組での教え合いを行う。楽譜も見やすいよう、色分けをする。
図工	△発想する力はあるが、発想したことを形にする技能が弱い。	<ul style="list-style-type: none"> ・個人が思いに合わせた表現方法を選ぶことができるように、新しい技能の習得と既習事項の確認、道具や材料を選び工夫できる図工室の環境を整える。児童が何度も試行錯誤して取り組めるように、材料を用意する。
体育	<p>△領域によっては、技能に個人差が大きく、積極的に児童同士でアドバイスすることができる児童が少ない。</p> <p>△自分の実態を知り、適切な課題をもつ児童が少ない。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学び合いを通して、技能が高い児童にうまくできるコツを発表させ、自分もどこを修正すればできるようになるかを実際に見て考えさせる。 ・自分がちょっとがんばったらできる課題は何か判断できるように話し合い活動や学習カード、学習資料を活用させる。
家庭科	△手指の巧緻性が低い児童が多い。	<ul style="list-style-type: none"> ・個に応じた指導ができるように、個々の児童の実態を把握し、ペア学習や保護者の協力も得ながら、できることから少しずつ段階を踏んでできるようにする。
外国語活動	△英語を書くことに抵抗がある児童が多い。	<ul style="list-style-type: none"> ・プリントを使いアルファベットを書く練習や、お手本を見て簡単な英文を書くことを繰り返すことで、英語に親しみをもち抵抗がなくなるようにする。

